

氏名	常 光 謙 輔		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 4 6 1 号		
学位授与の日付	昭和46年 6 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	<b>Tissue Typing by Unidirectional Mixed Lymphocyte Culture.</b> (One way のリンパ球混合培養法による組織の型合せ)		
論文審査委員	教授 砂田輝武	教授 佐藤二郎	教授 妹尾左知丸

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

リンパ球混合培養法の組織適合性検査としての有用性は次第に明確にされつつあり、その方法にも種々改良が加えられているが、とくに著者らは recipient の donor に対する反応のみを反映する one way 法で、マウスの H-2 抗原差を証明できることを明らかにしてきた。著者はこの one way のリンパ球混合培養法を用いて、マウスの non-H-2 抗原が加算された場合、リンパ球幼若化率によってその加算効果を証明できるかどうか検討した。その結果、マウスの non-H-2 抗原 (Sex antigen も含めて) が加算されると、幼若化率が有意に高くなることを認めた。

そこでこの one way 法をさらに臨床应用到近づけるため犬の同種皮膚移植と、同種腎移植とに用いて、混合培養のリンパ球幼若化率が皮膚の生着日数、移植腎の拒否反応度と相関することを明らかにした。

(備考) (Acta Med. Okayama 24巻, 3号 昭和45年6月, 24巻, 5号 昭和46年掲載予定)

#### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、one way のリンパ球混合培養法を用いて、臓器移植のさいの組織の型合せを研究したものであるが、non-H-2 抗原の加算効果、さらに本法の同種皮膚移植、同種腎移植への応用について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。